

## JGS Webinar 2021.07.07

### 『さまざまなライトと宝石』

日独宝石研究所 所長 古屋正貴 氏

この度は JGS 様のウェビナー『さまざまなライトと宝石』に参加させていただきありがとうございました。いつもとても専門的な話題を扱っておられ、難しく感じることも多いのですが、古屋所長のお話は身近な例をたくさん出してくださるのでその都度、宝石の魅力を別の観点から理解することができます。こういったことは実際の接客の場面でも役立ちますので、とてもありがたいことだと思っております。

さて、本日のテーマは『さまざまなライトと宝石』と題し、宝石を楽しむことにおいて基本的な「宝石の色の見え方」についてでした。

冒頭では回転ずしの動画が流れました。レーンで流れている美味しそうなマグロやいくらを手にとったあと、日の光が当たるテーブルに置いた時の色の違いは印象的でした。「あれ？こんな色だった？」というような落差がありました。

宝石も同じで、お店では一番魅力的に見えるようにライティングされていますが、お客様が購入後にどのような光のもとでジュエリーを楽しまれるかによってお客様の宝石に対する印象が大きく左右される可能性があります。

宝石の色は「光源の分光スペクトル」と「宝石の透過率スペクトル」がどのように掛け合わさっているかによって見え方が決まるとのことでした。これまでは太陽光、白熱電球、蛍光灯が主でしたが、最近では省エネの観点からも LED 照明が増えており、これまでとは宝石の見え方や楽しみ方、そして売り方も変化していくのではというお話がありました。

というのも LED ではシアン波長の波長が大きく欠けており、この影響によって太陽光などでは美しい色に見えたものが違ってしまふことがあるそうです。例としてコバルトスピネルが出ておりました。ブルーに見えたはずが、LED のもとでは紫がかったグレーのように見えていました。

しかし現在、LED は徐々に改良されており、色の演色性（再現性）が高いものもあるそうです。お勧めは「Ra90」以上で、その中でもダイヤモンドには 6500 ケルビン、色石には 5000 ケルビンがよいとのこと。なお、ダイヤモンドなどで宝石の輝きを見せたい場合は点光源、そうではない真珠などは面光源が良いというお話もありました。

また、LED の今後の可能性として「UV LED」が紹介されました。変色とは言えないですが、蛍光を楽しむという意味で UV ガーネットやヨーゴ・サファイアの例がありました。他にもエメラルドの含浸されたオイルがその部分だけ蛍光することや、脇石などのダイヤが蛍光すれば I 型 = 天然という簡単なチェック方法も教えていただきました。

ところで、以前お客様相談の受付業務をしていたときに、「家に帰ったら輝きも色も違うので返品したい。」とか「お店では無かったキズがある。すり替えられたかもしれない。」という相談を何度か受けたことがあります。なぜこのようなトラブルが起こるのか、今までは「お店と家の照明は違うから」という大雑把な捉え方でした。

しかし、今回のウェビナーではライトによる見え方の違いについて複数の実例を見せていただき、ライトと宝石の関係をより深く理解することができました。そして、さまざまなライトを知ることは、より宝石を楽しむことに繋がることがわかりました。お客様にも楽しみ方のひとつとしてお伝えしていきたいです。今回は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。